

活動レポート 2023

活動レポート 2023

【発行】2024年3月

東北地方ESD活動支援センター

【業務時間】平日9:00~17:30

〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F

TEL:022-393-9615 FAX:022-290-7181

E-mail:info@tohoku-esdcenter.jp

URL:https://tohoku.esdcenter.jp/



メールマガジンのご案内

東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)と東北地方ESD活動支援センターが環境やESDに関するお知らせ、催事情報、助成金・募集情報をお届けしています。

発行：月2回(第2週、第4週)

登録：ウェブサイトの「メールマガジンご案内」よりご登録ください。

ミーティングスペース

ESD、SDGsをテーマにする活動の打合せ、会議、小規模勉強会にご利用ください。詳細は事務局にご確認ください。

利用料金：無料 利用時間帯：10:00~17:00(平日)

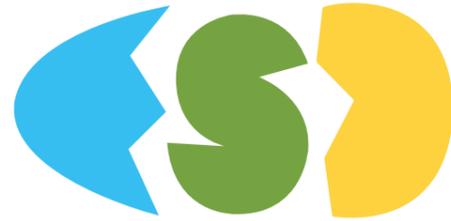
利用人数：16名まで



Education for Sustainable Development

Activity Report

ESDとは？



ESDはSDGs(持続可能な開発目標)達成に向けて、
持続可能な社会づくりの担い手を育む学習・教育活動のことです。

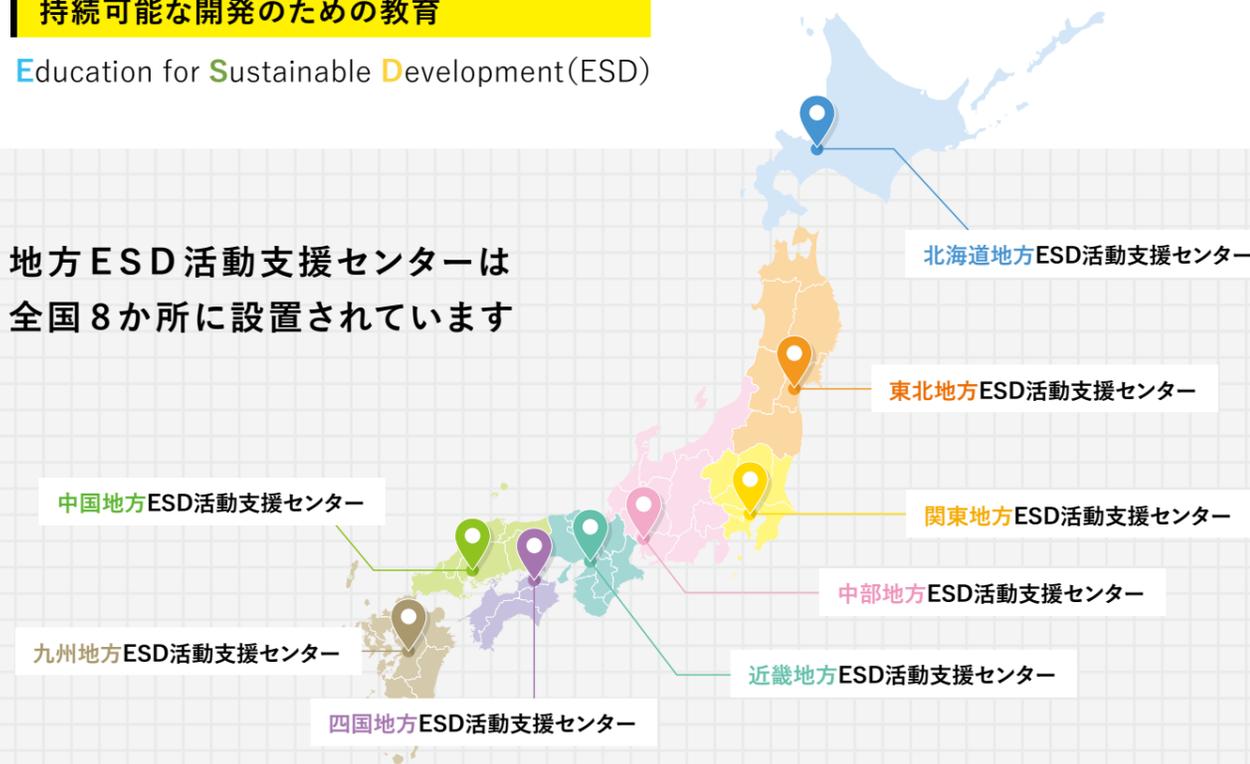
世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。問題解決の鍵として注目されているのが「教育」です。持続可能な社会の実現のためには、全ての人々が「暮らし方」や「社会の仕組み」を持続可能なものに変えていく必要があります。ESDとは問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことを目指して、世界中で取り入れられている教育方針です。

日本国内のESD活動を支援するため、文部科学省と環境省によってESD活動支援センターが開設されました。東北地方ESD活動支援センターは東北のESD活動・実践者を支援します。(開設日:2017年7月3日)

持続可能な開発のための教育

Education for Sustainable Development(ESD)

地方ESD活動支援センターは
全国8か所に設置されています



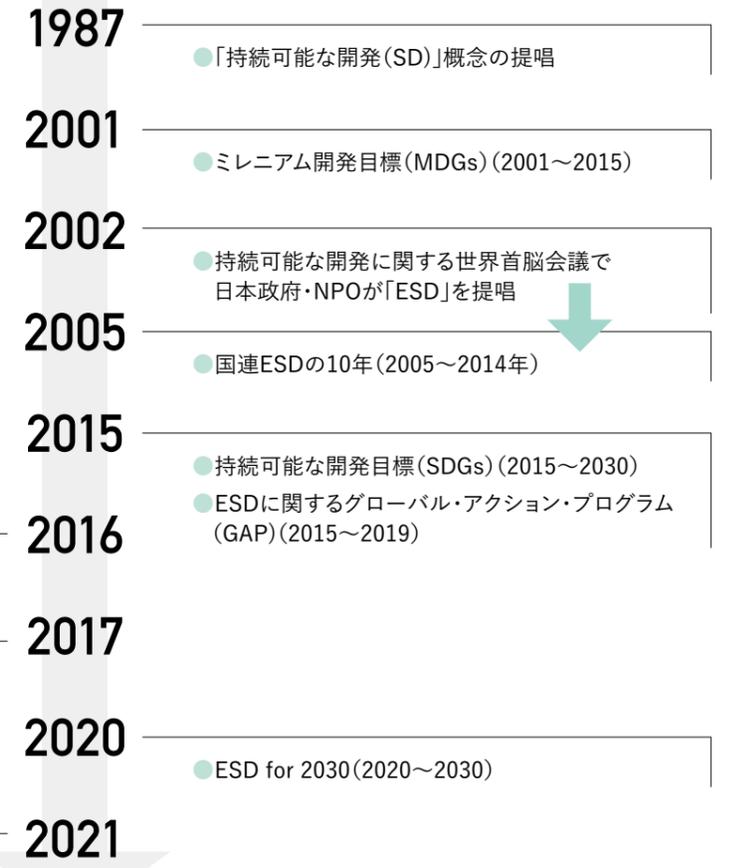
ESDで目指すこと 【6つの視点】



ESDは実践を通して学ぶ点の特徴です。地域や世界の問題を知り、自ら原因を考え、「自分の問題」として行動する「実践する力」の育成を目指しています。

ESDの変遷

世界の動き・ESDの国際枠組み



国内の動き

- ESD国内実施計画
- ESD活動支援センター設置
- 地方ESD活動支援センター設置
- 学習指導要領の改訂(ESDが全体の基盤となる理念として掲げられた)
- 第2期ESD国内実施計画(SDGs達成のための教育の推進が示される)

SDGs(エス・ディー・ジーズ)

持続可能な開発目標
(SDGs:Sustainable Development Goals)

2015年9月の国連サミットで採択された国際目標です。国連加盟193か国が2030年までに達成することを目指し、17の目標と169のターゲットを掲げました。経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会の実現を目指しています。貧困、紛争、教育、食糧、環境など、私たちが取り組むべき地球規模の課題をテーマとし、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを理念に掲げています。

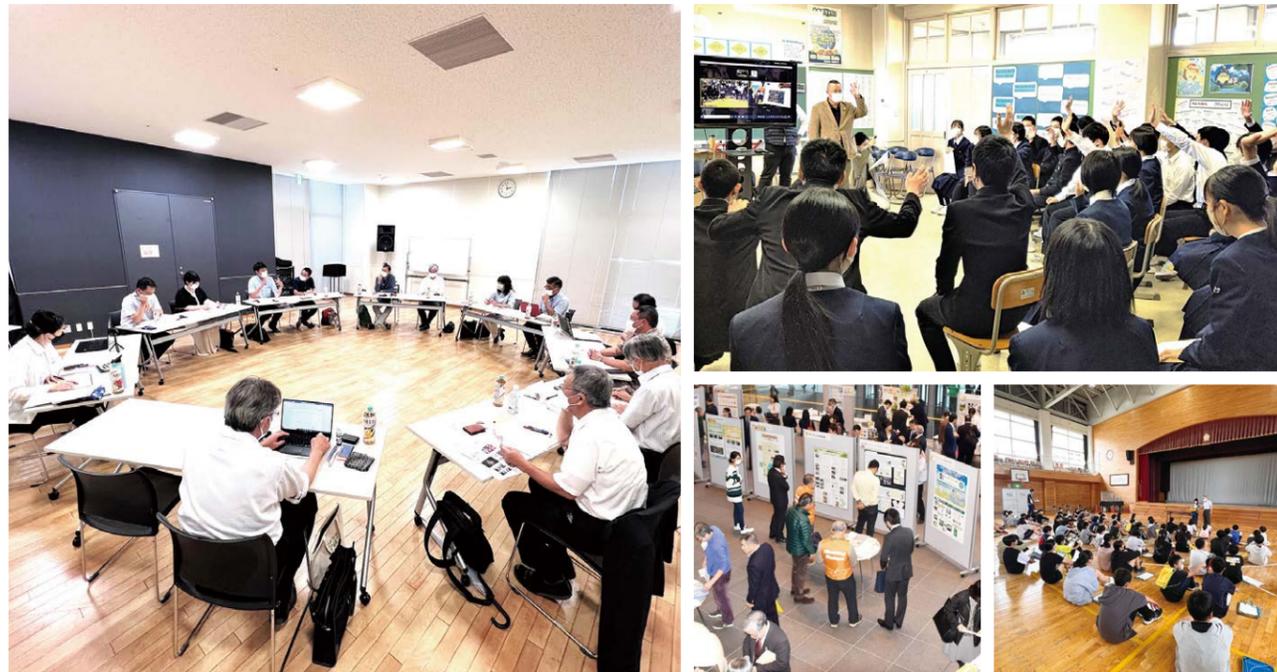


ESDとSDGsの関係

SDGsの17の目標のうち目標4に「質の高い教育を」という教育に関するゴールが設定され、ESDはターゲット4.7に位置づけられています。第74回国連総会においてSDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが確認され、「ESDはSDGs実現の鍵である」と表現されています。

東北地方ESD活動支援センター

4つの機能



皆でつくる、東北の人と情報が交流する場

ESD活動に取り組む人、これから取り組もうとする人、関心のある人が東北中から集まる『東北ESD/SDGs フォーラム』(年1回)を開催しています。多くの皆様のご協力をいただきながら、近年はオンライン配信、期間限定のアーカイブ配信も行っています。

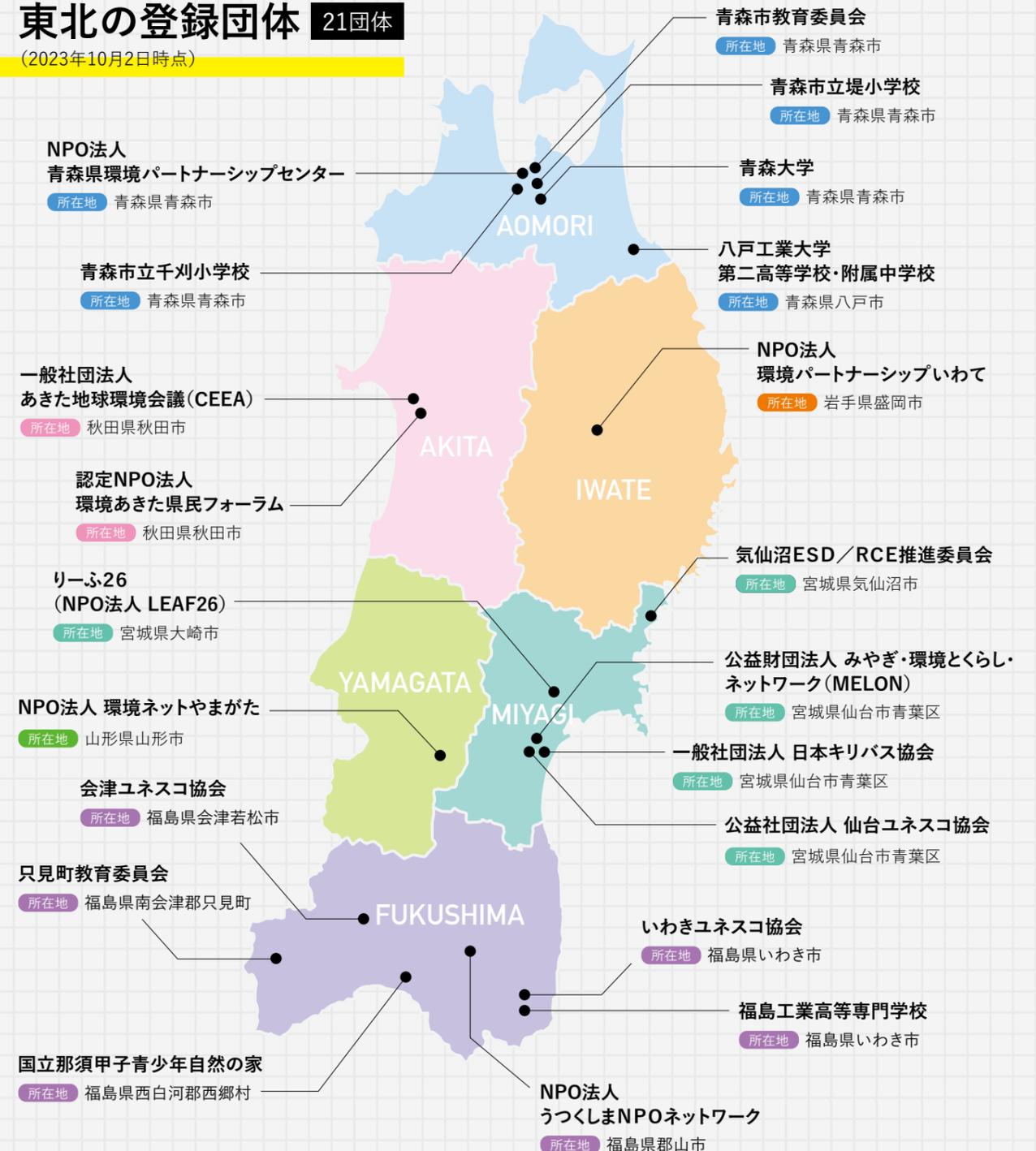
地域ESD活動推進拠点とは

地域におけるESD活動を支援・推進する役割を担う組織・団体に「地域ESD活動推進拠点」として登録いただく制度です。登録は2017年11月に開始され、教育委員会、社会教育機関、学術研究機関、企業、NGO/NPO、公益法人等多様なセクターから全ての都道府県で182団体が登録しています(2023年8月8日時点)



東北の登録団体 21団体

(2023年10月2日時点)





ESDを通して

社会に開かれた学校づくりへ



八戸工業大学第二高等学校・ 附属中学校



ユネスコスクール・キャンディデート校として 青森県の高校で唯一の 地域ESD活動推進拠点として

八戸工業大学第二高等学校は普通科の学校で、一貫・進学・総合・美術の4コース編成をとっています。生徒個々の個性・進路を尊重する校風で、県内有数の進学校としての評価を受けています。附属中学校は、サイエンス・テクノロジー教育、グローバル教育、ヒューマン教育(3つの学び)という特色ある教育を行っております。2024年度からは高等学校通信制課程を開設予定です。本校は現在「ユネスコスクール・キャンディデート校」「地域ESD活動推進拠点」の認定を受け、ESDを通じて地域貢献及び国際貢献に努めています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

上: 二高子ども食堂〜にここにご食堂〜
下左: 種差海岸でのマイクロプラスチック採取
下中: 「気候変動のミステリー」でのグループワーク
(東北地方環境事務所環境対策課主催)
下右: 味噌玉研究 2023年度日本菌学会第67回大会(熊本)
中高生発表部門優秀賞

〒031-8505 青森県八戸市大字妙字大開67番地
電話 0178-25-4311
FAX 0178-25-0568
E-mail niko67@hi-net.ne.jp
URL <https://www.kodai2-h.ed.jp/>



活動紹介

SDGsの環境・社会・経済 3分野の統合的な 学びを進めています



蕪島ウミネコ繁殖調査



東北地方ESD活動支援センターによる「SDGs講演会」

プロジェクト概要

本校ではESDを、各教科のほか「総合的な探究(学習)の時間」、愛好会を中心に3分野で進めています(以下は主なもの)。①環境系:「マイクロプラスチック研究」は、三陸復興国立公園の砂浜で採取したマイクロプラスチックのデータ化、吸着物質の分析などを行っています。「蕪島ウミネコ調査」は、国天然記念物蕪島に繁殖するウミネコの産卵数、孵化した雛数などをデータ化しています。②社会系:「二高子ども食堂〜にここにご食堂〜」は、高校生による子ども食堂やフードパントリー、学童保育園でのボランティアを行っています。③経済系:「味噌玉研究」は、地域の伝統食「味噌玉」から抽出された菌の研究、菌を活用した特産品の開発を企画しています。「持続可能な社会の創り手」の育成のため、地域から世界、地球へと視野を広げる教育を推進しています。

ESD実践のポイント

新学習指導要領は「持続可能な社会の創り手」の育成(ESD)を掲げました。これを受け本校は、カリキュラム・ポリシーにSDGsの達成を盛り込みました。SDGsには環境・社会・経済の3側面があります。本校ではこれを地域の実情にあわせて再構成し、次の3領域でESDを推進しています。①海・山など豊かな自然資源を有する地域性を活かし、地域の環境問題の考究や自然資源の保全活動を通して、地球規模の諸課題の解決策を提言できる力を養う。②中核市としての地域性を活かし、福祉・医療・教育・経済などをめぐる地域の諸課題の解決に努め、国内だけでなく世界にその成果を発信し貢献する力を養う。③豊富な文化遺産を有する地域性を活かし、地域の文化の考察を通して自国理解を深めるとともに、これを異文化理解・国際理解へとつなげる力を養う。

担当者からのメッセージ

本校は2020年度からESDを本格化させました。背景には、コロナ禍がありました。「多様な人々と協働しながら 様々な社会的変化を乗り越える力(新学習指導要領総則)を生徒にもってほしい、この一念でした。また、2019年12月に国連総会で採択された「ESD for 2030」が本校の活動を後押ししました。「地域ESD活動推進拠点」登録後、東北地方ESD活動支援センター様ほか多くの方々から支えられ、生徒だけでなく、学校、そして我々教員も成長させていただいております。



八戸工業大学第二高等学校・附属中学校
ユネスコスクール認定準備チーム、
地域ESD活動推進拠点

チームリーダー 熊谷 隆次さん
サブリーダー 坂上 尚子さん

岩手



豊かに生きる

ここちよく



岩手県盛岡市

特定非営利活動法人 環境パートナーシップいわて

岩手の環境をよりよいものとし 未来世代に贈る

岩手県内のさまざまな団体と連携、パートナーシップを構築し、持続的発展が可能な循環型社会の実現に寄与しています。また、コンプライアンスを遵守し、環境保全、環境教育にかかわる業務の運営・活動に取り組んでいます。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

上: ポットに海浜植物の種を蒔く
下左: 大学の先生による海浜植物の講義 下中: 松林の雑草とり作業
下右: 大学の先生が作業手順を説明する

〒020-0124 岩手県盛岡市厨川5-8-6
電話 019-681-1904
FAX 019-681-1906
E-mail kanpai@utopia.ocn.ne.jp
URL <http://www.iwate-eco.jp/>



活動紹介

根浜海岸林再生事業



海岸清掃後の集合写真



海浜植物保護のための杭打ち作業

プロジェクト概要

東日本大震災により海岸防災林が大きな被害を受けた岩手県釜石市根浜海岸では、再生に向けた活動が盛んです。岩手県立大学、岩手県沿岸広域振興局、釜石市、地元企業、環境保全団体、環境教育団体等が協議を重ね、再生事業に取り組んできました。中でも釜石市の将来を担う地元の中学生が、この事業に取り組む意義は大きいです。海岸防災林を復活させるためには、根元を覆う海浜植物の植生を健全に保たなければなりません。ハマヒルガオ、ハマナス、ハマエンドウ等の種子を育て、これを移植し、雑草を抜き、同時に海岸清掃も行います。地域が一体となった環境保全活動です。中学1年生の時に携わった生徒たちは、その後事業を引き継ぐ後輩たちに地元の根浜海岸の大切さを伝えていきます。

ESD実践のポイント

海浜植物再生のため地元の中学生を対象に大学の先生による植物の講義に始まり、種子を削る作業、ポットに土を入れ種を蒔く作業、苗に育った植物を海岸林の根元に移植する作業、同時に雑草を抜き、周辺の海岸清掃も行います。1年をかけて幾度となく根浜海岸に足を運び、地元の大人たちも協力して中学生の活動を見守っています。植物の知識やノウハウを持った人たちの支援と協力で海岸林を育て、守る活動が継続されています。中心となって動くのが地元の中学生であることの意義は大きいです。

担当者からのメッセージ

東日本大震災当時1歳・2歳だった彼らが、中学生となり根浜海岸林再生事業に取り組む姿は感慨深いです。先輩たちが卒業した後は、後輩たちが事業を引き継いでいます。海岸清掃活動にも積極的に取り組み、綺麗な砂浜が保たれています。大震災で浜辺の9割を失った根浜海岸ですが、地域の人たちの協力で海開きができるまでになりました。さらに素敵な場所にしようとする子どもたちの想いに感動します。生徒たちの成長を見守り、一緒に活動を続け、本事業の意義を広げていきたいです。



スタッフ 坂下 慶夏さん

宮城



多様な主体の参画と協働による学校・地域包括型ESD for 2030の推進
地域の特色とネットワークを生かした多様な学びの展開



気仙沼ESD/RCE推進委員会

「海と生きる」地域と学校とのつながりを大切に ローカルへの深い理解とグローバルな視野を 持った持続可能な社会の創り手づくり

気仙沼には「森は海の恋人運動」や「スローフード運動」などが根差し、早くからESDを土台とした地域ぐるみの教育を推進しています。国内外から高い評価を得ている気仙沼のESDは、自然環境、食文化、伝統文化、国際理解、防災・減災、海洋など、地域の特色とネットワークを生かしながら、探究的で協働的な多様な学びとして展開しているところに特長があります。その中核を成している気仙沼ESD/RCE推進委員会は、仙台広域圏ESD/RCEの一地域として、学校や大学等の専門機関、産業団体、行政、NPO等の関係機関・団体等との連携を積極的に図りながら、本市教育の基盤であるESDのさらなる充実と学びの産官学コンソーシアム事業の推進にも努めています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ) [SDGs]



写真について
上：海水温の上昇による水産業への影響を調べる
下左：東日本大震災遺構・伝承館での語り部活動
下中：キリバス共和国の小学校と気候変動学習での交流
下右：地元食材を活用したオリジナルレシピでの
ブチシェフ・コンテストに参加

〒988-8502 宮城県気仙沼市魚市場前1番1号
電話 0226-22-3441
FAX 0226-23-0943
E-mail kyogaku@kesennuma.miyagi.jp
URL <https://www.kesennuma.miyagi.jp/li/life/040/010/index.html>



活動紹介

気仙沼ESD/RCE円卓会議



気仙沼ESD/RCE円卓会議2023



円卓会議2023でのパネルディスカッション

プロジェクト概要

2002年度から毎年11月に開催している「気仙沼ESD/RCE円卓会議」の目的と方針は次の3つです。まずは、文部科学省や日本ユネスコ国内委員会、国連や大学関係者等を招聘し、最新の教育の動向やESD/SDGsの情報を得て、それらを共有します。そして、幼稚園、小・中学校、高校、行政、企業、NPO等の取組を発表し合い、地域における多様な主体のESD/SDGsの実践を学び合います。さらに、教育、地域、行政、企業、ユネスコ協会等の視点から環境や防災、まちづくり等について議論し合い、持続可能な社会の創り手を育む観点から時代の地域課題を議論し、方向性を共有します。これらについて講演や事例発表、パネルディスカッションを通じて共に学び合い、磨き合える貴重な場がESD円卓会議です。具体的には、2021年度は市長から教育を軸とした産学官民協働による構想が提案され、気仙沼市持続可能な社会推進市民会議が発足に至りました。2022年度は子供の尊厳と人間の安全保障、持続可能な社会の実現について議論し、2023年度は気仙沼のESDの価値と今後の展望についての提案・提言と活発な意見交換が行われました。

ESD実践のポイント

先ごろ策定された第3期気仙沼市教育大綱には、「ふるさとを愛し、創造力を高め、持続可能な社会の創り手として、人間性豊かで健やかに生きることを願い、ここに目指したい姿を掲げて、生涯に渡る学びを実現します」とし、「人を思いやる心と高い倫理観、豊かな感性」、「創造的に自律して生きていく力」、「ふるさとを思うローカルな視点、世界で活躍するためのグローバルな視点」の3つが基本理念に示されています。これらの実現に向け、気仙沼ESD/RCE推進委員会と気仙沼ESD/RCE円卓会議が果たす成果を考察すると、①多様なセクターと多様なレベル、多様な世代を巻き込んだESDプラットフォームであること、②気仙沼市が抱える様々な課題に向き合い、解決への合意形成を図る場であること、③ESD/SDGsの最新情報を直接学び、アップデートするグローバルな学びの場であること、④地域のESD/SDGsの実践の共有と課題を深掘りする場であること、⑤持続可能なESDの推進システムを構築し、変化する時代(SDGs)への対応を協議する場であること、の5つに整理できると言えるでしょう。

担当者からのメッセージ

気仙沼がESDに取り組み始めてから20年以上が経ちます。あの頃学校でESDを学んだ子供たちは既に子供を持つ親世代になっています。彼らの考え方や生き方にESDがどのように関わってきたのか問いかけたいです。「自分らしく幸せに生きる」ことができる人と地域を気仙沼のESDはずっと目指してきました。最近、ESDに期待されること、SDGsとして達成させることが子供にも大人にも、学校にも社会にも一層増えているような気がします。そのような今だからこそ、私たちはESDによる教育の原点を見つめ直し、本来のESDの在り方、向き合い方を問い直すことの重要性を強く認識しています。気仙沼ESD/RCE推進委員会では、今後も学校や様々な立場の方々と連携しながら、気仙沼のESDに誇りを持って充実させていきたいと思っています。



気仙沼市ESD/RCE推進委員会
(スローフード気仙沼 理事長/
気仙沼商工会議所 会頭)

委員長 菅原 昭彦さん

宮城

活動(グローバル)へのきっかけ作り

「グローバルに考えローカルに」



宮城県仙台市

一般社団法人 日本キリバス協会

気候変動やSDGsを 「知っているけど遠いところの問題」から、 「自分事」への橋渡し

中央太平洋にある『キリバス共和国』は、最貧国であるだけではなく、気候変動により「水没する国」とも紹介される『2050年危機』が示唆されています。ここ近年日本でも気候変動により甚大な災害などが頻発していますが、未だに「遠いところの問題」と捉えられがちです。このキリバスをテーマに、環境教育や、キリバスの青少年はじめ幅広い分野の人材交流、人材育成などを通して、気候変動とSDGsを「知っているけど遠いところの問題」から「自分事」への橋渡しをし、『グローカル』へのきっかけ作りのお手伝いをしています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: 日本側の発表
下左: キリバス側の発表 下中: ドキドキの対面!
下右: キリバス側の発表を日本側から

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目1-17
やまふくビル4階-2
電話 022-397-9914
E-mail kentaro.ono686@gmail.com
URL <https://www.facebook.com/tekeraokiribati>



活動紹介

秋田県大仙市立 大曲南中学校・ キリバス共和国 セントルイス中学校 オンライン交流



2022年度の交流がキリバスの新聞で取り上げられました



2023年度の交流もキリバスの新聞に掲載されました

プロジェクト概要

地域ESD活動推進拠点である「(一社)あきた地球環境会議」との連携で、秋田県大仙市立大曲南中学校とキリバス共和国南タラワ市のセントルイス中学校とのオンライン交流を2022年度と23年度に実施しました。2022年度はオンライン交流を前に、当協会代表理事によるガイダンス講話を全校生徒向けに行い、キリバスとその人々の生活、伝統文化及び同国における気候変動の実情の紹介、そして交流の重要性を伝えました。また、まだSDGsの周知度がキリバスでは低いため、キリバス側の学生はSDGsの事前学習を行い、実際の交流では、自己紹介、クイズを通じた双方の地域と文化紹介、そして気候変動に関する実情の紹介や、SDGsと『私たちが望む未来』をテーマにそれぞれが取り組めることに関する意見交換を行いました。

ESD実践のポイント

「水没する国」という、冷酷なまでに無味無臭で乾ききった冷たい一文で紹介されるキリバスに住む12万人の人々には、日本の皆さんと同じように当たり前の毎日があり、未来も希望もある。そして馴染みはあるものの、キリバスから遠く離れた日本という超大国には同年代の若者がいる。こんな当たり前の事実を実感してもらうため、参加者の顔写真と氏名、自己紹介を事前共有し、まずは同年代として親近感を持ってもらうことを意識しました。また、忌憚なく発表や意見交換ができるよう、自己紹介以外は双方の母国語(当協会による通訳と補足説明を介して日本語とキリバス語)を用いることを大原則としました。このことで、双方とも気候変動で実感していることやSDGsへの取り組み等を、臆せず母国語で発表と聞くことができ、双方の距離を縮め、『グローカル』の重要性を再認識してもらうことができました。

担当者からのメッセージ

遠くに住む、見たことも会ったことも無い人に想いを馳せることは難しいことです。でも、たった一度でも、そしてたとえ画面越しでも顔を合わせた人には、どんなに遠くとも想いを寄せることは難しくありません。このオンライン交流は気候変動やSDGsの『自分事化』だけではなく、両国の若者の絆づくりに大きく寄与していると自負しています。



代表理事 ケンタロ・オノさん